

科目名		電気保全			
担当教員		富樫 久夫		実務授業の有無	有
対象学科		電気電子工学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		消防設備第四類（自動火災警報設備）の設置基準や設備の構成、設置や保守の方法や決め事を理解し、消防設備士免状を取得できるレベルに到達する。			
学習目標（到達目標）		消防設備士乙種第四類の法令および機器の問題が解ける			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		消防設備士4類試験対策テキスト&問題集（秀和システム）			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	受信機の構造と規格 ※前期期間中に前倒して実施しました			テキストとノートにて 感知器の分類について、対象物理と検知方法について、特徴を押さえる（P.144～152）	
2	その他の装置			テキストとノートにて 音響装置とガス漏れ表示灯、中継器について、特徴を押さえる（P.153～156）	
3	感知器と感知区域、ガス漏れ検知器			テキストとノートにて 感知器・検知器の分類ごとにその取付位置や取付方法について、きまりを覚える（P.157～167）	
4	自動火災報知設備の点検・試験			テキストとノートにて 受信機・感知器・検知器の種別に応じた点検・試験のやり方を理解する（P.168～172）	
5	単元末試験			テキストとwebにて （P.173～192）	
6	実技試験対策鑑別編			テキストとノートにて 過去問題の答練（P.194～212）	
7	実技試験対策製図編			テキストとノートにて 過去問題の答練（P.214～227）	
8	試験対策			テキストとwebにて （P.229～282）	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組み姿勢	単元末のテスト			授業の前に（ ）に示すページを読んでおくこと。 計算が多くなりますが、ノートをしっかり取って完全理解を目指しましょう。 PDF教材はiPadでの閲覧になります。	
%	100 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		電気・電子技術者として設計の現場に5年係わっていた 消防設備士甲種4～7類			